

## 第4回野洲駅南口周辺整備構想検討委員会結果報告について

### 1. 開催日時等

平成25年2月19日(火) 午後2時00分～4時15分 於：野洲市役所本館3階第1委員会室

### 2. 委員等

＜出席委員（18名中17名）＞			50音順
1号委員（学識経験者）			
及川 清昭 委員	松岡 拓公雄 委員長		
2号委員（関係機関・団体を代表する者）			
太田 正己 委員	鍛冶 平太郎 委員	鈴木 あつ子 委員	
中田 幸子 副委員長	間宮 美佐緒 委員	森野 百代 委員	
山本 真嗣 委員			
3号委員（行政機関）			
小川 文章 委員	谷村 定義（代理：城居 弥寿彦） 委員	橋 俊明 委員	
4号委員（公募）			
兒玉 志織 委員	前田 基良 委員	西村 昇 委員	
5号委員（市長が認める者）			
樋口 俊助 委員	平野 剛 委員		
.....			
＜欠席委員（1名）＞			
2号委員（関係機関・団体を代表する者）	立入 誠悟 委員		

＜傍聴者＞

16名

＜報道機関＞

1社

### 3. 議事等

#### 1) 健康に着目した駅前空間の形成について

#### ◎南口におけるにぎわい創出について（全体）

＜検討課題＞

#### ○南口におけるにぎわい創出の考え方の整理

##### 道路渋滞に対する考え方

⇒ 道路渋滞が日常的に発生しているわけではなく、施策（ソフト・ハード面）により緩和も可能で、委員会としてはにぎわい創出のためのあり方を念頭に検討を進める。

A委員 ・この南口周辺整備構想の検討にも関連すると考えられる交通ネットワーク構想はどのような内容か。

B委員 ・交通ネットワーク構想検討委員会で最終のまとめをしていただいたが、JR鉄道敷による地域の分断を解消するための幹線道路の立体交差化や、JRの連続立体交差化といった視点も含んでいる。

C委員 ・通過交通の進入により駅前が渋滞するので、通過交通と送迎車の区分けができれば渋滞緩和に繋がる。

D委員 ・ハード整備以外にもソフト施策として、時間帯を区切って駅前に自家用車の乗り入れ禁止などの手法がある。

##### 医療機能についての考え方

⇒ 規模や運営者が誰であるかということではなく、南口に必要な機能として、健康をテーマにする中で、医療機能には病院を位置付け、南口整備に盛り込んで検討を進める。

E委員 ・野洲市に病院はあった方がよい。別に検討されている病院像は。

→ 地域医療のあり方を検討いただいた専門家等による提言書に示されている病院像は、近隣にある病院と機能的に競合するような病院ではなく、回復期医療や在宅医療の後方支援機能を持った病院。

## 中長期的な視点における考え方

⇒ 約20年先を構想の将来像とした上で、区域内には既存の公共施設や民間業者の権利不動産があることから段階的な計画によって進める。

- E  
委  
員
- ・ JAおうみ富士としては支店統廃合による新組織を平成27年度からスタートさせる予定であるので、区域内にあるJA所有の不動産について、この南口整備の中でどのように取り扱うのかを早期に協議いただきたい。協議のタイムリミットを断言することは難しいが平成25年中にはお願いしたく、また、駅周辺という立地の利便性を感じていることから、手法は様々あると考えるが、新組織においても可能な限りこの区域内で事業展開を考えている。
  - 区域内に含めて検討することについては書面で確認をしており、また、JAおうみ富士の新組織に向けた動向も伺っていることから、この検討委員会で南口に必要な機能を方向付けいただいた上で、協議させていただく予定である。

### ◎にぎわい健康ゾーンについて（グループ）

<検討課題>

○南口にふさわしいにぎわい健康ゾーンは

- ・ これまでの委員会での意見や市に寄せられている市民の意見を踏まえ、心と体の健康を実現できる市民広場を事務局から提案の上、グループにて議論

#### グループA（地域的な視点）：1号委員（松岡委員長）、2号委員、4号委員 11名

- ・ 駅前の立地から、南口整備の核と駅が直結することが必要。そして、駅を降り立ったときに広場や公園といった広がりを感じられる空間が必要。
- ・ 駅前には何かしらシンボルが必要。それは建物ではなくイベントなどができる広場、緑豊かな憩いの公園であるという考え方もある。その広場は駅と直結し周辺の新たな建物をつなぐ中心にあることで将来に渡りシンボルとなりうる。
- ・ 既存の文化ホールのような一つの用途に縛られたものでなく、文化活動やスポーツも可能なアリーナへの転換がよい。
- ・ 景観計画との整合をとる中で、三上山が眺望できるポイントや緑と一体感を感じれる憩いの場が必要。
- ・ 市民や来訪者が集まりやすい駅前で、市民活動に利用が可能な空間で、且つ、その活動が見える空間を設けることで、人が集まりにぎわいが生まれ市民活動も活性化する。
- ・ 駅前における市民活動の活性化により、新たな交流やつながりが生まれ、憩いの場としてのカフェやギャラリーなどのニーズが出てくる。
- ・ 鉄道利用者の集客を期待して、物産販売や観光の案内所が情報発信の拠点としてもよい。
- ・ 駅前を市民の財産とするなら、病院と市役所をともに配置してはどうか。
- ・ 交通アクセスが向上するターミナル機能の充実と円滑に人と車が流れる工夫が必要。その中で、景観への配慮は必要だが駐車場の確保が必要。
- ・ 全国的に人口減少が進む中で将来も利用できるように、また、世代によってもニーズが異なることから多目的に利用が可能なものがよい。特に子ども達のための空間は必要。
- ・ 現在の野洲幼稚園は園児に対する施設規模や園舎自体の老朽化等の課題があることから、幼稚園を含めた南口整備の検討が必要。
- ・ 現在の図書館へのアクセスを考えると、駅前にも図書館機能があれば利用しやすい。

#### グループB（広域的な視点）：1号委員（及川委員）、3号委員、5号委員 6名

- ・ 地域の分断解消となる鉄道線路の高架化は現位置では富波乙地先の電車基地との距離により技術的に困難。駅舎自体の移築は費用は別にして地元からの強い要望があれば可能。
- ・ 利便性向上のためにはペDESTリアンデッキ整備や駅舎自体の移築が考えられる。
- ・ 南口駅前広場は袋小路の状態であるが、駅前の優良な土地を新たな道路整備に活用すべきでない。渋滞緩和は可能な限りソフト施策によることが望ましい。その際、高齢者や障がい者等の交通弱者への対応は十分考慮する。
- ・ 今後のバス事業としては、機動的な小型バスの導入などまちの毛細血管となるようなきめ細かなサービス提供への展開が考えられる。

- ・甲賀病院のように新設のバス路線を設けることなく、既存路線を病院までの移動手段として活用できることから病院立地は駅前がよい。
- ・潤いのある緑地は必要だが、各区画の周囲を緑で囲うだけのような手法ではなく、札幌の大通り公園のように広場・緑地との組合せなど一体感を感じられるような手法が必要。市民広場・緑地を将来に渡って持続する基幹要素とし、その周辺を時代の要請に応じて建物で囲む計画が望ましいのではないか。
- ・国の支援策として駅前に関するメニューは多く、平成25年度からも都市再生のリノベーション事業が新設される予定であり、民間活力の導入も利用しやすくなっている。

検討委員会として、にぎわい健康ゾーンに必要な機能を整理し、その課題を整理するとともに構想のとりまとめに向けてを検討を進める。

### <傍聴者から>

- ・駅前は病院ではなく、可変できるコンベンション機能が必要。
- ・郷土の偉人等の歴史が感じられる駅前がよい。
- ・広場や病院が規模としてどのように整合がとられるのか興味がある。
- ・野洲市の顔としてのシンボルとなるものが欲しい。
- ・夢やロマンが感じられる駅前づくりを進めて欲しい。
- ・バスの利用が便利で近くに安心できる病院が欲しい。
- ・買い物や交流のスペースにより通過点でない明るく気持ちの良い駅前がよい。 など

### 2)その他

○今後のスケジュール等

6月上旬の第6回検討会議を最終に委員会のとりまとめを予定。なお、第5回検討会議は4月上旬に開催予定。